

# 沿岸海況の短期変動と漁況に関する研究

(予算区分 県単独 研究期間 平成20～22年度)  
担当：資源海洋科 萩原快次・長谷川雅俊

## 【研究の背景とねらい】

- ・黒潮など海況の数か月の長期予報は概ね可能となり長期漁海況予報として提供されています。しかし、沿岸漁業の効率的な操業にとって重要な短期的な海況変動の予測は、暖水流入が短期間で変化し十分なデータが得られないことから、現象の解明や予測は難しく実現していません。
- ・そこで、平成20年度から新たに作成・発行した「関東・東海海況速報」で得られる日単位の水温と黒潮流軸の数値データを活用し、黒潮変動と暖水波及の関係を明らかにするとともに、モデルを利用して駿河湾内の流れなどの海況変動を把握します。
- ・さらに、海況で明らかとなった知見を基に、しらす船曳網漁場の変遷などの特徴的な漁況との関係を分析し、沿岸漁業者の要望が強い短期的な沿岸漁海況予測のための新たな手法を検討します。

## 【これまでに得られた成果】

(平成20年度の成果)

- ・海況図や実測値などから、平成20年4月の駿河湾での急潮時に、暖水は地衡流の性質を有して湾内を反時計回りに流れ、湾中央部には冷水域が形成されたことが確認されました。
- ・平成20年4月の標本船によるしらす船曳網漁況の推移から、暖水波及としらす漁況との密接な関係が示唆されました。
- ・FRA-JCOPE\*データから駿河湾の暖水流入を再現し、湾内を反時計回りに流れるパターンを確認しました。

(平成21年の成果)

- ・海況図から数値データを抽出し、黒潮小蛇行に伴う暖水や内側反流の伝播速度が毎秒約30cmと見積もられ、駿河湾では湾東部から中央部への暖水の伝播が確認されました。
- ・しらす標本船情報から、平成21年4月は前年度と同様に暖水波及と漁況とに密接な関係が示されましたが、6月以降は暖水波及と直接関係なく漁況が好転していて、両者の関係には時期も考慮する必要があることが示唆されました。

## 【期待される成果】

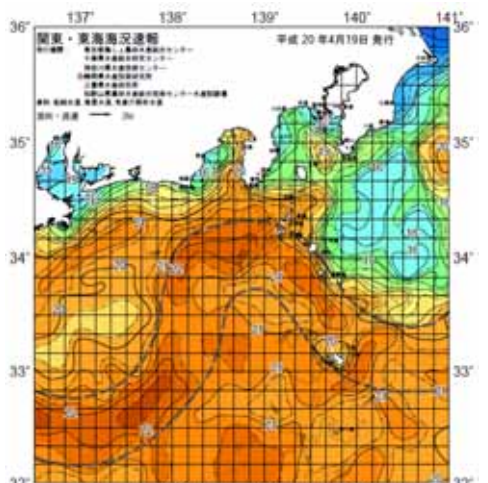
黒潮変動とそれに伴う沿岸への暖水波及を把握することにより、しらす船曳網漁業などの短期漁海況予測技術の基礎が得られ、将来、沿岸漁業の短期漁海況予測が実現され、しらす船曳網漁業では効率的な操業及び燃油費削減により、経営の安定が図られます。

## 【今後の計画】

- ・各種観測の実測値、海況図数値データおよびFRA-JCOPEデータを活用して、特徴的な事例について、黒潮変動と駿河湾への暖水の波及・伝播状況を解析します。
- ・海況の短期変動としらす漁場変化の関係解明を行います。

(作成 平成22年4月)

\*FRA-JCOPE：中央水産研究所が開発した海況予測モデル



急潮発生時の海況図(平成20年4月19日)